

1. 事業業名：「中東情勢/実務セミナー」
2. 場 所：学士会館
- 3・実施日：平成 27 年 11 月 12 日（木） 10：10 ～ 11：40 講演（質疑応答含む）
11：45 ～ 13：00 懇談会
4. 演 題：「長年のサウジアラビア勤務経験から得た仕事の流儀」
5. 講 師：みずほサウジアラビア 前会長 田中 保春 氏
6. プログラム：開会挨拶
講演（60 分）
質疑応答（20 分）
懇親会

7. 講演骨子：

今回のセミナーは、サウジアラビア勤務歴が通年 20 年におよび、退職後の現在もリヤドを拠点に法人や機関に対しアドバイスやコンサルティングを提供されている、みずほサウジアラビア前会長の田中保春氏に「長年のサウジアラビア勤務経験から得た仕事の流儀」と題してご講演いただいた。

講演はサウジアラビアでの勤務における数々の失敗談から始まり、それぞれの失敗経験から学んだこと、そして最後に長い現場経験からこそ得られたサウジアラビアでのビジネスに役立つ知見を共有いただいた。

日系企業とサウジアラビア側とのMOUアレンジ失敗、相手を激怒させてしまった経験、面談の場で退場を促された等の苦い失敗を経験したものの、田中氏はそれらの失敗を招いた原因を分析し、以下 4 点の学びに至ったという。

- ・ 結局、自分は（わかっていたつもりが）何もわかっていなかった。わかろうとしていなかった。
- ・ 実務は自分が汗をかいて経験しない限り、分かった事にはならないし、人にも教えられない。
- ・ 相手を更に知り、理解する努力を怠らない。仕事に限らず相手にプラスになることを考える。
- ・ 現実に即して自分の頭と体で考え、行動する。

サウジアラビアでの仕事の流儀として、田中氏は相手と継続的な付き合いをすること、相手の価値観を尊重する、そのためにはアラブや部族の歴史、文化等を学ぶ、相手の息子など家族にも気配りし仕事以外の相談にも可能な限り乗る等、利害関係がなくても個人として長く付き合い友達の輪を拡げることに努めた。

講演後の質疑応答では、多くの質問が上がった。サウジアラビアとの付き合いが長くなったその理由について、田中氏は人間関係、つまり周囲とのつきあい、サウジアラビア人の友人が多かったことが大きな理由であると述べ、一例として入院時のエピソードを紹介した。

サウジアラビアにとっての日本の位置付けについての質問に対して、経済面でのプレゼンスは極めて大きいことは確かであるが、サウジアラビアは地政学的リスクが高まると安全保障が国最大の優先事項となり日本政府としては関与できない部分であるため立場が弱いと回答した。また、文化面や和食など個人レベルはともかく大きいビジネス面で考えるとサウジアラビアに対する貢献を考慮しないと持続的なビジネスは難しいとの見解を述べた。

<成 果>

講演後に実施したアンケートの結果、参加者の皆様より高い評価を頂きました。

講演について、「実務のご経験に基づく業務の進め方、コミュニケーションの取り方など現地で仕事をするうえで非常に参考になりました。」「サウジアラビアに限らず、全般的な海外業務についての仕事の取組姿勢、流儀についてお話が聞けた。」「現地駐在ならではの貴重な意見をお伺いでき、有意義であった。事業の話からサウジ人との付き合い方まで幅広いテーマ、内容であり講師の人間的幅広さを感じた。」など有益であったとの感想が多く寄せられました。

今後のセミナーのテーマ設定については、今後のイランビジネスについて、日々変動する中東情勢について等ご要望を頂いた。今後のテーマ設定の参考としたい。

